別子往還道を訪ねて

第八回　端出場②

マイントピア別子観光坑道からの帰りは歩くことにします。川沿いの歩道を進んで行くと、レンガ造の坑口が現れます。これが第四通洞です。採鉱する場所が年々、低くなっていったことから、大正4年に貫通し、東平の第三通洞から主役の座を引き継ぐこととなります。坑口の上には、住友家十五代家長住友吉左衛門友純（ともいと）の筆となる「第四通洞」の文字、その上には今も大山祇の神が祀られており、ここではかつて夜昼なくトロッコ列車に乗って行き来していた採鉱関係者が今日も事故がないことを祈っていました。路面には今も線路跡が見られます。第四通洞の前には四通橋という鉄橋があります。この鉄橋の横にある橋を渡り、桜並木を歩いて行くと、見えてくる木造の建物は、かつて住友企業の迎賓館として使用され、別子銅山記念図書館用地となった北新町から移築された泉寿亭特別室棟です。鉱山鉄道に乗って通ってきた端出場隧道、端出場鉄橋と共に平成21年に国の登録有形文化財となっています。泉寿亭の前で先ほど通ってきた第四通洞の方を振り返り、山を見上げると、中腹に灰色のコンクリート構造物が垣間見えます。これが昭和44年に完成した大斜坑の貯鉱庫です。残念ながら山中には立ち入ることはできませんので、ここからの見学にとどめます。

泉寿亭横の階段を下りると対岸にはマイントピア別子の建物のモデルとなったレンガ造の旧端出場水力発電所が見えます。本年1月に国の登録有形文化財となりました。建物のレンガが黒く見えるのは太平洋戦争中に標的とされないようにコールタールが塗られたためです。隣接して建物より高い樹木はヒマラヤスギで、水力発電所稼働後に植樹されたようですが、国内最大級の高さのヒマラヤスギではないかとも言われています。明治45年竣工の水力発電所と共に、対岸から端出場の移り変わりを見つめてきました。

第四通洞と四通橋

広告欄

広告欄

広告掲載については、ソネ　デザインスタジオ（☎ 0897 - 33 - 5721）へお問い合わせください。

市政だよりにいはま（通巻七八六号）平成二十三年十二月一日発行　毎月一回一日発行